

# 外国人学習者のための「接続語」の使い分け分類表作成の試み

—— 理由・結果・目的節について ——

市川保子

## 1. はじめに

日本語には同じような意味を表すであろうと思われる事柄に対して、数多くの表現が存在する。「理由」を表す接続語（本稿では、複文において、前件と後件をつなぐ語を接続語と呼ぶ。）もその例である。

- 1) 美人と結婚したから（
- 2) 美人と結婚したので（
- 3) 美人と結婚したのだから（
- 4) 美人と結婚したために（
- 5) 美人と結婚したものだから（
- 6) 美人と結婚したからには（
- 7) 美人と結婚したからこそ（
- 8) 美人と結婚した以上（は）（
- 9) 美人と結婚しただけあって（
- 10) 美人と結婚しただけに（
- 11) 美人と結婚したばかりに（
- 12) 美人と結婚したおかげで（
- 13) 美人と結婚したせいで（
- 14) 美人と結婚した手前（
- 15) 美人と結婚したゆえに（

・  
・  
・

これらの接続語は、前件と後件にどのような因果関係が存在するか、その事

態・事柄を客観的にとらえるか主観的にとらえるか、個人的な評価が入るか否か、話し言葉的か書き言葉的か、など種々の基準により存在し、使い分けられる。native speaker である日本人はその使い分けに不自由はないが、外国人学習者は接続語の種類のに驚き、その使い分けに戸惑う。当然その使い分けにおいて誤りをおかすことも多い。

森田良行(1985)は、目的関係を表す2文、「学業を続けるのに奨学金が必要だ。」と「学業を続けるには奨学金が必要だ。」を取り上げ、次のように述べている。

文型にはその文型特有の意味(文義)がある。(中略)日本語教育において、文型練習と並行してその文型の意味を教え、同時にそれが文の発想に由来するものであることを押さえておかなければ意味がないであろう。そのためには、まず日本語学の分野で、文型論に並行して文義論の研究を進め、一つ一つの文型が持つ意味(文義)を実例から帰納して、意味面から文型成分としての正用・誤用が判定できるような基準を打ち立てる必要があるのである。

本稿は、従属節を作る接続語のうち、結果を表す「～結果・あげく・上で」、目的を表す「ために・ように・のに・には」、および、上述の理由を表す接続語のいくつかを取り上げ、外国人学習者がより早く理解、使い分けができるための比較・分類の方法が何かを考える。また、上記の接続語を比較することによって、学習者が使い分けを感知できるような接続語の使い分け分類表作成の方向を模索する。

## 2. 接続語の選択基準

ある接続語を用いて、文(複文)を発話する場合、表現主体は自分の発話が適切に行われるために、さまざまな選択と決定を行う。理由・結果・目的だけに限っても、主に次のような決定を行って、それにふさわしい接続語を選んでいると考えられる。

	選 択 内 容
談話の場面	話し言葉か書き言葉か。 ていねいに述べるか普通に述べるか。
論理認識	原因と結果の関係があるか。 前件の理由のために特に後件が起こりうるか。
トキとの関係	完了した事柄の叙述か未完了の事柄の叙述か。 実際に行われる事柄かそうでない事柄か。 「その場合、トキ」の意味が入るか。
主語との関係	自分のことを述べるか他人のことを述べるか。
文の内容と表現主体との関係	一般論として述べるか具体的事柄として述べるか。 前件に対して当然の帰結と判断するか。 前件に対して重要・必要と判断するか。 評価が入るか。入るなら、プラス評価かマイナス評価か。 主観的にとらえるか客観的にとらえるか。 感情が入るか。入るなら、どのような感情か。 驚き、悲しみ、うれしさ 主語の対面、名誉に関するもの 不利益・利益 「決意をもって、覚悟して」の思い入れ うしろめたさ 「そうならないことを願って」という気持ち ・ ・ ・ ・

これらの基準が各接続語ごとに、細かく整理されることによって、森田の言う文型の意味、発想を教える文法教育につながっていくのであろう。

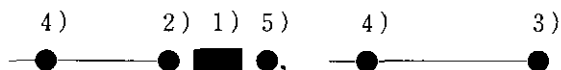
### 3. 外国人学習者の誤用

では、学習者は複文発話（作成）において、どのようなところで誤りをおかすことが多いのであろうか。

市川（1993）でも観察されたように、複文作成において、学習者の誤用は、次の1）～5）で起こることが多い。

(下図は複文の構造を表し、5)●までが前件を、カンマ以降は後件を表す。)

1) の■は接続語を指し、以下、2) 接続語への接続の形、3) 文末、4) 主題・主語、5) 接続語の後ろの助詞を示す。)



1) は接続語自体を指す。外国人学習者のおかす誤用には次のようなものが見られる。(下線部は誤用を示す。(→ )は、下線部の誤用を筆者が直したものである。φは脱落していること、(→φ)は脱落させるべきことを表す。国名は学習者の国を示す。)

(1) せっかく大学に入ったので(→のだから), ちゃんと授業に出るべきだ。

(タイ)

(2) 自転車が上手になる上で (→には/ためには), たくさんころんだ方がいい。(中国)

以下2)～5)について見ていく。

## 2) 接続語への接続の仕方

(3) 卓球試合がもうすぐφ (→な) ので, 準備をしておきましょう。(中国)

(4) 集中し勉強に取り組む (→取り組んだ) ために, 試験がよくできた。(タイ)

## 3) 文末

(5) 昨日試験があったために, あの映画を見に行かなかった。(→行けなかった)。(中国)

(6) 地震で電話が混雑しているのだから, 神戸の友だちには連絡がとれません (→とれないのは当然だ)。(アメリカ)

## 4) 主題・主語

(7) 子どもは風邪を引いたために, 学校を一日休んだ (→子どもが風邪を引いたために, 私は学校を一日休んだ)。(中国)

(8) 私は (→φ) 日本の大学に入るには保証人が必要だ。(韓国)

## 5) 接続語の後ろの助詞の有無

(9) 日本の文化をわかるために φ (→は), 日本で何年もすまなければなり

ません。(ブラジル)

(10) 先生と相談した結果は(→φ), 研究のテーマを変えた。(インドネシア)

これらの他にも、副詞との呼応関係(さすが〜だけあって、さんざん〜あげく、結局、やはり等)、接続語の作用領域(肉を切るのに使う道具/?肉を切るには使う道具)などあるが、習得困難点として多く見られるものは、接続語そのものの使い方、および前件と後件、特に後件における文末との結びつきがうまくできないという点であると思われる。

#### 4. 調査の概要と結果

外国人学習者が接続語の選択に戸惑う場合、彼らにどのような使い分けの基準を示す必要があるだろうか。寺村(1987)はnative speakerに文法的予測力についての調査を行い、「驚くほどの正確さで、しかもかなり先まで現われそうな語(の連なり)を予知する」との結果を得ている。寺村の調査は、「その先生は……」「その先生は私に……」「その先生は私に父が……」と、native speakerである被験者に、主に補語成分を段階的に与えて、どのような文末表現が出てくるかを観察したものであるが、もし、同じことが従属節の接続語使用においても言えるのであれば、そのことを利用し、外国人学習者にnative speakerに予測されやすい文末表現をまず指導すれば、手っとり早いということになるだろう。

表1は日本人学生35名に実施した調査を、接続語と文末表現の現れ方を中心にまとめたものである。調査のやり方は、作文形式で、次のようにこちらから一定の前件を与え、日本人学生に自由に後件を作らせるという形をとった。

理由：美人と結婚したから \_\_\_\_\_  
 ので \_\_\_\_\_  
 のだから \_\_\_\_\_

・  
 ・

結果：いろいろ考えた結果 \_\_\_\_\_  
 あげく \_\_\_\_\_  
 上で \_\_\_\_\_

目的：フランス語を勉強するために \_\_\_\_\_  
 ためには \_\_\_\_\_  
 には \_\_\_\_\_

調査の結果現れた文末表現は左列に示したように、大きく、意志、叙述、判断、問いかけに分け、さらにその中を細分化した。意志の中に願望を、判断の中に感情表現（うれしい、とんでもない等）、および推量表現を含めた。表中の数字は当該文末表現を用いた人数を示している。

表から観察されることの一つは、ある接続語を持つ前件に対し、一定の文末表現がとられやすいということである。35人中10人以上（○印）がとった文末表現だけを見ても、次のような文末表現に集中している。<sup>1)</sup>

美人と結婚したから	←→	形容詞	ので	←→	～た、形容詞
のだから	←→	だろう	ために	←→	～た
ものだから	←→	～た、～る	からには	←→	～なければならない
からこそ	←→	のだ	だけあって	←→	形容詞
ばかりに	←→	～た	おかげで	←→	～た
せいで	←→	～た	手前	←→	～ない

いろいろ考えた結果 ←→ ～た、ことにした  
 あげく ←→ ～た  
 上で ←→ ～た

フランス語を勉強する ために ←→ 意志～る・～ます、～た  
 ためには ←→ 必要だ・重要だ  
 には ←→ 必要だ・重要だ  
 上で ←→ 必要だ・重要だ

このことに関連して、観察されることのもう一つは、接続語によっては文末表現が多岐に渡るものとそうでないものが存在するということである。同じ理由を表す接続語でも、「以上（は）」は11項目に渡っているのに対し、「だけあって」「ばかりに」はその半分にも満たない。結果を表す接続語では、「上で」が7項目と幅広く文末表現をとるのに対して、「結果」は2項目に収束された。目的でも「のに」の方が「には」より広く文末表現がとれるようである。

表1 日本人学生調査結果

接続語 文 末 表 現	理 由											結 果			目 的										
	か ら	の で	の だ か ら	た め に	も の だ か ら	か ら こ そ	か ら こ そ	以 上 (は)	だ け あ つ て	だ け に	ば か り に	お か げ で	せ い で	手 前	ゆ え に	結 果	あ げ く	上 で	た め に	た め に	よ う に	に は	の に	上 で	
意志 命令			2		3		1																		
意向～よう			1	3		1	2										3								1
つもりだ																			1						
願望～たい・ほしい			2			9	1 5						2						1	1				1	
～る・～ます							2										1	1	10						
叙述 ～た	8	14	23	12	1	5		5	6	19	21	19		16	17	18	21	23		5		9	2		
ことにした・ことに決めた																		18	9	7					
～る	5	7	4	10		7		2	7	9	2	8	3	6				1					2	4	1
～ない (否定)	6				1	4	2	1		1	1	14					7							4	
形容詞	12	10	2	6	1			19	9	3	8			1											
形容詞+名詞								5	7																
判断 必要がある・大切だ			1					1												17	18	9	28		
当然だ								1																	
一番いい																				4		4			
のがいい																						1			
～たほうがいい																				4		1			
なくてはなげればならない			5			10	4 8					2	8				1	1		8		5	1		
わけにはいかない																	1								
はずだ				4																					
のだ	1						12							1											
感情表現・形容詞				3	2	5		3		3	1	3	1	3											
推量 だろう	2	1	11			5	4 6		1					3	1										1
ようだ													1												
～まい								1																	
らしい		1			1																				
かもしれない					1		1			1															
にちがいない			2					1																1	
ように思う・ような気がする																									
問い ～じゃない(だろう)か			1				1													1	2	5	1		

## 5. 意味理解のための使い分け分類表作成に向けて

日本人学生に実施した調査の結果、native speaker は接続語に対してもかなりの部分共通した文末表現を引き出すということがわかった。もちろん、調査ではひとつの意味内容を持った文（「美人と結婚した」「いろいろ考えた」「フランスに留学する」のうちのひとつ）しか与えられていないので、他の文が与えられた場合、後件の文末表現も多少変わってくることは予想される。そのことを考慮し、外国人学習者のための接続語使い分け分類表作成に当たっては、日本人学生の調査結果を基に、北條（1989）の研究に筆者の内省を加え、汎用性のある「文末比較」の表作りを心がけた。

外国人学習者のための使い分け分類表は、この「文末比較」と、2で述べた接続語の選択基準に基づいた「接続語の意味機能比較」を中心に行う。「文末比較」には、「文末比較表」とともに、実際にどのような後件が現れたかを調査結果資料から一部紹介する。これは、学習者が自然なつながりの文を読むことによって、前件と後件の流れ、接続語と文末との関係付けを感じとることをねらったものである。

### 5-1 文末の制限比較

表2は、前出の表1を、理由、結果、目的ごとに分け、同じ文末表現をとった人数を◎○△+で表したものである。（◎20人以上、○19～15人、△14～10人、+9人以下）+に関しては、調査では出てこなかったが、他の文内容では現れうるものを筆者の内省に基づいて付け加えた。学習者はこの表によって、当該接続語がどのような文末を取りうるかを知る手がかりを得ることができる。

表3は、「理由：美人と結婚した～」「結果：いろいろ考えた～」「目的：フランス語を勉強する～」に続けて出てきた日本人学生の作った例文の一部である。紙面の関係上、接続語は、学習者が混乱しやすいものの中から一部を選んだ。

これらの例文はあくまでも一例に過ぎないが、学習者が同じ前件に続く複数の後件例文に触れることは、自然な日本語文の体得には不可欠であると考えられる。



表2 文末比較

理 由	から	ので	のだから	のために	ものだから	からには	からこそ	以上(は)	だけあつて	だけに	ばかりに	おかげで	せいで	手前	ゆえに
意志 命令 意向~よう 願望~たい・ほしい ~る・~ます	+	+				+	+							+	
叙述 ~た ~る ~ない(否定) 形容詞 形容詞+名詞	+	△	◎	△	+	+	+	+	+	○	○	○	○		△
判断 必要がある・大切だ 当然だ なくては・なければならない わけにはいかない はずだ のだ 感情表現・形容詞 推量 だろう ようだ ~まい らしい かもしれない にちがいない ように思う・ような気がする	+	+	+				+	+							
問い ~じゃない(だろう)か	+	+				+									

結 果	結果	あげく	上で
意志 意向~よう ~る・~ます			+
叙述 ~た ことにした・ことに決めた ことがわかった ~る ~ない(否定)	○ ○ ○ ○ + + ○ +		+
判断 ~たほうがいい なくては・なければならない		+	+
推量 だろう にちがいない			+

目 的	ために	ためには	ように	のに	のに	上で
意志 意向~よう つもりだ 願望~たい・ほしい ~る・~ます			+	+	+	
叙述 ~た ~る ~ない(否定)	◎		+	+	+	
判断 必要がある・大切だ 一番いい・のがいい ~たほうがいい なくては・なければならない		○	○	○	◎	
推量 だろう にちがいない						+
問い	+	+	+	+	+	



結果  
いろいろ考えた

結果	あげく	上で <sup>3)</sup>
結局行くことに決めた。 最初の案を採用することにした。 やはり仕事をやめることにしました。 何もしないことにした。 筑波大学を選んだ。 計画を実行に移した。 行くのをやめました。 良い案がうかんだ。 この方法が一番無難であろうということになった。	就職することになりました。 あの件はあきらめることにしました。 行かないことにした。 やっぱり最初に自分が選んだほうにした。 やめてしまった。 つまらないものを買ってしまった。 どの本も買わなかった。 結局は最初の意見に落ち着いた。 結局答は出ませんでした。	実行に移そう。 車を買うか決めさせていただきます。 行動に移した方がよいだろう。 履修申請をしなければなりません。 結論を出した。 どの本を買うか決めた。 進学することにした。 出した答です。 決めた結論である。

目的  
フランス語を勉強する

には	の	上で
根気が必要です。 相当強い意志と忍耐力がある。 それなりの心構えをしなければなりません。 フランス語に興味がなくてはいけない。 いくつかの方法があります。 いろいろな手段がある。 フランスを旅行するのが一番だ。 学校に通うのがいいでしょう。 フランスに行ったほうがいい。 どうしたらいいですか。	時間が欲しいです。 わざわざ東京まで通った。 仏和辞典が必要になった。 辞書を買った。 お金がかかります。 近道はありません。 いい先生が大切だ。 難しい本はいらない。 相当努力しなくてはならない。 フランス留学は役に立つに違いない。 必要なものは何だろう。 何かいい方法がありませんか。	流ちょうなフランス語を目標にしようと思う。 何回も大きな壁にぶつかった。 教科書が必要だ。 発音は大切だ。 発音は重要なポイントである。 大切なことは辞書をよくひくことです。 気をつけなければならないことがあります。 発音に注意することが重要です。 文法は一つの困難になるだろう。 何が一番難しいだろう。 重要なことは何ですか。

### 5-2 「接続語の意味機能比較」

表4は表3で取り上げた接続語の意味機能比較である。比較の基準としては、当該接続語の意味機能に関するもののみを取り上げた。(理由節は、使い分けの難しい「のだから」「からには」「からこそ」「以上(は)」を理由1、「だけあって」「だけに」「ばかりに」を理由2とした。)学習者がそれぞれの接続語の使い分けに迷うとき、この表で比較検討することができることをねらったものである。

### 5-3 使い分け表使用の実際

では、次に表2～4を使って、学習者にとって使い分けにくい、理由「からには」と「からこそ」の使い分けを試みてみよう。

表2の「文末比較」から見ると、文末表現の分布では、「からには」のほうが「からこそ」より取りうる範囲が広いことがわかる。「からには」は意志を表すことができるが、「からこそ」はせいぜい願望「たい」「ほしい」止まりである。また、「からには」は単なる叙述の「～る」はとれず、「～る」形をとった場合は意志を表すことになってしまう。「からには」は、また、判断の「なければならない」と結びつきやすい。

「からこそ」は「～る」はとれるが、「はずだ」「わけだ」より主観的な「のだ」と結びつきやすく、また、推量「だろう」に関しても、「のだ」と結びついて「のだろう」となりやすく、「のだろうか」の形で問いかけをすることができる。

表3の例文からも、「からには」には話し手の前件理由に対する意志、判断、助言、推量などが積極的な形で出ている。「からこそ」はむしろ「からには」より一步引いた形で話し手が意見、感想を述べる方向をとっている。「からには」が表現主体および他者への決意・判断表明の性格を帯び、「からこそ」は主体の見方、意見述べの方向をとっている。これらのことは、表4からも言えることで、「当然起こる結果」というところでは両者は共通するが、「からには」は決意という思い入れが入り、「からこそ」は、前件の理由を重視して、そのために「こうなのだ、こうであったのだ、こうあるべきなのだ」という判断の方向に向かっていく。

- (1) 社長になったからには、大改革をやりたい。
- (2)         //         からには、大邸宅に住んでみせる。

表 4 接続語の意味機能比較

理 由 1	のだから	からには	からこそ	以上(は)
理由、それによって当然起こってくる結果。	○	○	○	○
「決意を持って、覚悟して」やるの思い入れが入る。		○		
前件の理由のためにことさら、後件が起こる。			○	
文全体がさらに客観的、説明的。	○			○
より用法の範囲が広い。	○			○
話し言葉的。	○	○	○	○
すでに完了した事柄(前件)についての説明。	○	○	○	○
未完了の事柄(前件)についての説明。	○	○	○	○
異主語をとることができる。	○	○	○	○
同主語をとることができる。	○	○	○	○

理 由 2	だけあって	だけに	ばかりに
理由としてふさわしい、一般的にそう認められる。	○	○	
プラス評価。	○	○	
マイナス評価。			○
評価なし。		○	
前件の理由のためにことさら、特に後件が起こりうる。		○	
より用法の範囲が広い。		○	
残念、遺憾であるという気持ちを含む。			○
前件の事柄を行いたいためにひたすら後件を行う。			○
話し言葉的。	○	○	○
すでに完了した事柄(前件)について説明。	○	○	○
未完了の事柄(前件)についての説明。	○	○	○
異主語をとることができる。	○	○	○
同主語をとることができる。	○	○	○

結 果	結 果	あげく	上 で
行為、状態がある程度続いて後件の結果になる。	○	○	
行為、状態がある程度行って後件の結果を行う。			○
時間的関係を持ち込むので、トキの表現ともとれる。	○	○	○
人間、動物、組織に関し、自然現象は含まれない。			○
マイナス評価の事柄に限られる。			○
マイナス評価はない。	○		○
副詞(さんざん、〜か月)などが付きやすい。		○	
客観的に事実を述べる。	○		○
話し言葉的。		○	○

目 的	に は	の に	上 で
非状態性(行為・変化)を目的とする。	○	○	○
状態性(状態)を目的とする。	○		○
「その場合」の意味がある。		○	○
ある事柄を一般論として述べる。	○	○	
具体的な事柄を述べる。		○	
文末は「必要だ、便利だ、効果がある、いい」が来る。	○		○
異主語をとることができる。	○		○
同主語をとることができる。	○	○	
すでに完了した事柄についての説明。		○	○
未完了の事柄についての説明。	○	○	
文全体がさらに客観的、説明的。			○
話し言葉的。		○	
書き言葉的。			○

- (3) 社長になったからこそ、部下の意見を聞かなければならない。  
 (4) // からこそ、大邸宅に住めるのだ。

## 6. おわりに

以上、外国人学習者にとって使い分けの難しい接続語を取り上げ、何らかの助けとなる使い分け分類表の作成に向けての模索を行ってきた。

表2の「文末比較」は各接続語を持った従属節に対する、主節の文末モダリティの比較でもある。そこでは、どのようなモダリティが来やすいか、どのような文末表現をとりやすいかが示されていることになる。また、表3はその接続語が使われやすい、頻度の高い例文を示したものである。これは、日本人がよく使う、その接続語に現れやすい典型的な例文を観察し、使用させることがより効果的な習得方法であるという考え方に基づく。

表4の「接続語の意味機能比較」は文法的な意味機能を比較することで、学習者に接続語の働きを概念的につかませるためのものである。

表2～4が立体的に組み合わされたとき、外国人学習者は接続語の使い分けが比較的楽に行えるであろう。

今回は一部の接続語を取り上げるにとどまり、また、調査に使った前件も限られたものであるが、たたき台として提出する。よりきめの細かい分類表の作成を目指すことを今後の課題としていきたいと思う。

### 注

- 1) 表1において、各接続語の人数の合計が35に満たないものは無答者がいたためである。
- 2) 目的「ように」に関しては、調査の際、「フランス語を勉強するように」として与え、後件を作らせたが、35人中30人は「ように」を目的以外の意味でとらえていたため、表では目的としてとらえた5人の文のみを表示した。30人が作った後件の多くは次のようであった。

フランス語を勉強するように先生から言われた。

// 親に勧められた。

// 説得した。

// ドイツ語も勉強する。

- 3) 結果を表す「上で」、および目的を表す「上で」の作例の中には次のように「上で」がさらに従属節に取り込まれるものが多かった。結果の「上で」では5例、目的「上で」では22例もあった。表1、2では「上で」が直接関係する文末とい

うことで分類した。(例えば、「フランス語を勉強する上で大切なことは努力することだ。」という文では「大切だ」を「上で」に関係する部分と判断した。)

結果：いろいろ考えた上で出した答です。

〃 決めた結論である。

目的：フランス語を勉強する上で大切なことがある。

〃 重要なことは何ですか。

#### 参考文献

- 森田良行 (1985) 『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』 明治書院  
北條淳子 (1989) 「複文文型」『談話の研究と教育II』 国立国語研究所  
寺村秀夫 (1987) 「聴き取りにおける予測能力と文法的知識」『日本語学』第6巻  
第3号 明治書院  
中右 実 (1994) 『認知意味論の原理』 大修館書店1994  
市川保子 (1993) 「外国人学習者の予測能力と文法的知識」『筑波大学留学生センター  
日本語教育論集』第8号  
\_\_\_\_\_ (1993) 「中級レベル学習者の誤用とその分析—複文構造習得課程を中心  
に—」『日本語教育』81号 日本語教育学会  
酒井たか子 (1995) 「文の適切性判断のための一試案—後続文完成問題における日本  
人との比較—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第10号  
野田春美 (1995) 「「のだから」の特異性」『複文の研究(上)』くろしお出版  
B Rudzaka 他 (1981) “THE WORDS YOU NEED” Macmillan  
\_\_\_\_\_ (1985) “MORE WORDS YOU NEED” Macmillan

(本研究は平成7年度筑波大学学内プロジェクトの助成によるものである。)